

1 今年度の重点目標に対する総合評価

今年度の達成目標に対する評価は、A（達成した）が4項目、B（ほぼ達成した）が3項目あったものの、D（目標の達成に至らなかった）が1項目、C（現状維持）が1項目となった。D及びCの評価に該当した重点目標に対しては、学校評議員から、安易に達成目標の数値を見直して良しとせず、具体的な取り組みに対して検証を行って判断し、毎年のアクションプランの内容も変えていく必要があるとの指摘をいただいた。

来年度は、学校評議員からの指摘を鑑み、重点課題そのものと適切な達成目標値の検討を行い、重点項目によっては見直すことも必要と考える。

各アクションプランの詳細は、様式5に記載してあるとおりであるが、重点目標を概観すると以下の通りである。

① 授業力の向上を重点項目として、今年度も「互見授業参観及びICT機器を使った授業の実施」についての目標を設定した。目標達成の数値は、互見授業参観を実施した教員の割合は50%以上、ICT機器を使った授業を実施した教員の割合は80%以上となりほぼ目標は達成できた。学校評議員からは、パワーポイントは、大変便利なツールである。教科書の写しだけではなく、アニメーションや動画など、いろいろと創意工夫することもできるが、教員の準備は大変大きくなると思う。今後は教科毎に共通スライドを作成するなど工夫が必要だと考える。ICT機器の活用については、積極的に推進するとともに、新たな取り組みを進めていく必要があると指摘をいただいた。

コロナ禍において、今後とも生徒の学習意欲を喚起できるような授業の工夫を行うとともに、ICT端末を活用した新たな授業展開を行うなど、学校全体で組織的に取り組んでいく必要がある。

② 今年度は、規則正しい生活習慣の確立と社会性を身につけさせることを目的に、「携帯電話の使用に関連したネットトラブルの防止」について、また「朝から授業に集中できない生徒の生活改善」についてを課題設定とした。「ネットトラブルの防止」については、昨年度発生件数0件であったが、今年度は、各学期末毎に実施している生活実態調査で、ネットトラブルについての状況を確認したところ、2件発生した。ネットトラブルの防止に関しては、講演会や全校（学年）集会時に呼びかけを強化し、SNS等の正しい使用について理解を深めさせる活動を積極的に行ったが、目標が達成できなかった。

「普段の生活を見直す」については、就寝時間、睡眠時間、スマホ等の使用時間の生徒アンケートを実施し、保健だより等を通して、積極的に生活改善の必要性を説いたりした。また学校内科医による講演会や就寝時間等のポスターを保健委員が作成し、クラス掲示をするなど積極的に行った結果、達成目標が74%以上となりほぼ目標が達成できた。学校評議員からは、ネットトラブルが0件というのは現実的ではない。あるものと考え、対応を考えるべきである。被害防止に向け、注意喚起のため全学年に向けて外部講師による安全教室を開催してみてもどうか。また、生活習慣の改善について、教員側から目当てを与えるのではなく、それぞれの生徒が自ら定めた目当てに基づ

いて生活改善を図るよう工夫して取り組んでもらいたいという意見があった。

近年、スマートフォンの依存症が問題視され、日常生活において睡眠不足や昼夜逆転に陥る者も増加している。来年度も引き続きコロナ禍が続くことが予想されるため、達成目標について、生徒の実態を正しく分析・判断し、さらに具体的な取り組みについて検討していきたい。

③ 今年度も、生徒の進路意識を高める手立てとしてキャリア教育に一層力を入れることを鑑み、進学・就職において評価対象となる各種資格取得を奨励し、資格取得を目標として設定した。キャリアガイダンスによって、自身の進路選択や進路目標が明確になった生徒の割合は1学年は76.5%、2年生は65.7%であった。また、漢字検定・英語検定など、1年生は1種類、2・3年生は2種類以上の資格を取得する生徒の割合では、1年生は28.5%、2年生は1種類が45.5%、2種類以上が10.3%、3年生は30.0%であった。資格取得のための学習は、それをきっかけに教科の学習意欲にもつながっており、今後とも積極的に参加を勧めたい。次年度へ向けて、各種検定試験の適切な受験級・日程・対策方法など情報を適宜生徒に伝え、積極的に受験を奨励していきたいと考えている。

また、読書によりさまざまな生き方や考え方に触れさせることで、キャリア教育等の推進につなげるための進路支援を目的に、今年度は、「新聞活用講座」が、小論文や面接等進路面での対策として有意義だったと答える生徒の割合について目標を設定した。具体的な取り組みとして、生徒の自主的参加による「新聞活用講座」を実施し、「看護・福祉クラス」、「現代社会クラス」の2クラスを開設した。そこで、生徒が新聞を活用し、看護・福祉の現場や現代社会が抱える課題等について知り、将来の自分の進路に生かすことについて考えさせた結果94%の達成となった。各講座は大学進学も意識して設定していたため、生徒からの感想としては、「進路面での対策として有意義だった」と答えた生徒は多かった。また、講座自体の満足度も100%であった。満足の理由は、「まとめる力」「考える力」「聞く力」がついた、「視野が広がった」等、目標は十分に達成されたと考えている。今後とも充実した進路支援に取り組んでいきたい。学校評議員からは、進路選択について、上級学校のオープンキャンパスに参加した際、富山西高校の卒業生が説明してくれたので分かりやすかったという話を聞いたことがある。また、各業界で活躍している卒業生は大勢いるため、進路ガイダンスで、本校の卒業生に講師となってもらえるのもよいのではないかと。また、新聞活用講座では、やらされるのではなく、生徒が自分のこととして捉えないと先に進まないのではないかと。そういう点で新聞活用講座は生徒が自主的に取り組み、効果を上げている。「伝える力」等が身につく新聞活用講座は、社会性を育むという点でも有効である。次年度以降も継続して取り組んでもらいたいなどの意見をいただいた。

④ 今年度は、「部活動個人達成目標が達成できた生徒」、「ボランティア活動に参加した生徒」についての目標を設定した。部活動では、年度当初に部活動の個人目標カードを記入させ、年度末に目標達成度を自己評価させた。その結果、部活動個人達成目標が達成できた生徒の割合は、「達成できた」と「まあまあ達成できた」が全体の63%であった。また学年別では3年生の割合が78%と全学年の中で最も高かった。具体的な取り組みとして、部活動達成目標カードを各クラスに掲示した。目標を教室に掲示したことにより、目標を常に意識しながら生活するよう心がけさせた。学年別では3年生の割合が78%と全学年の中で最も高かった。部活動での目標や、進路に向けた目標を十分に達成できたと考えられる。

今後とも部活動への意欲的な参加を促しながら、目標を持って取り組む生徒を少しでも増やし、

部活動の活性化を図っていきたい。

また、ボランティア活動では、今年度ボランティア活動に参加した生徒は93名であった。現在もコロナ禍の影響で、多くのボランティア活動に人数制限を設けたり中止となったりしているため、活動の工夫が求められる。学校評議員からは、年度初めに達成可能な目標を立てる「個人カード」をつくることは大変よい取り組みである。目標を立てて、それに向かって進むということは、将来にも役立つと思う。また、ボランティアについては、今後、コロナの動向によって元に戻っていくのかもしれないが、戻らないのであれば、目標の見直しや新たな目標の設定が必要であるという意見をいただいた。

⑤ 今年度は、コロナ禍において停滞したPTAに関わる各種活動を充実させ活性化を取り戻すことに重点を置いたところ、PTAに関する会合の実施回数も12回となり100%実施することができた。また、本校ホームページに学校行事等の記事などを機会を捉えて多く掲載するなど、情報発信に力を入れて取り組んだ。昨年度以上にホームページの掲載回数も多く行うなど、学校からの情報や活動成果等をよりタイムリーに発信することができた。このことについては十分に評価できる結果だったと言える。

今後ともPTA会長の牽引力と役員の皆様の理解と協力によりPTA活動がより活性化し、充実した活動となるよう推進していきたい。

学校評議員からは、PTA活動については、ある程度の会合はできたようだが横のつながりをつくるのが難しかったのではないかとと思われる。今年度はようやく復活ができたというところだと思うので、来年度はさらに充実した活動を行ってほしいという意見をいただいた。

学校評議員の皆様には学校の状況も十分に理解していただいております。年度末の学校評議員会においては、新型コロナウイルス感染症の影響は少しずつ緩和されつつあるため、社会の流れに応じてアクションプランの内容も変えていく必要がある。家庭や地域との連携をさらに強化し、本校の教育活動を、より実りあるものにしてほしい。今後とも保護者、地域社会、中学校（生徒も含む）が本校を求めているものを把握し、本校の特色を生かすようさらに検討してほしい。といった貴重な示唆提言いただいた。次年度のアクションプランの作成に生かし、より生き生きと学校生活を送り、地域に認められる生徒の育成にあたらねばならないと考えている。

2 次年度へ向けての課題と方策

次年度に向けての具体的な課題と方策については、各アクションプランに記載されているとおりである。今年度、新たな目標設定を行った5つの目標については、目標値、具体的方策等において見通しが甘い点も見受けられた。次年度へ向けて再検討し、適切なものに改めていきたい。

「A」と評価された項目では、より高い目標を設定し保護者との一層の連携のもとで、教職員一体となって取り組み、生徒の健全な育成にむけて取り組んでいきたい。